

# 山大病院だより

3  
2018

VOL.238

特集：◎退任のごあいさつ

## 退任のごあいさつ

山口大学大学院医学系研究科  
整形外科学講座 教授  
前山口大学医学部附属病院長

### 田口敏彦

河合伸也教授の後任として平成16年8月に4代目の整形外科教授を拝命し、同時にリハビリテーション部長を兼任しながら13年8か月になりました。本年3月末日をもちまして定年退任いたします。この間、診療録センター長、医療経営センター長、医療人育成センター長、副病院長を併任しながら、平成25年4月から平成29年3月までの4年間山口大学医学部附属病院長を務めさせていただきました。

病院長としての仕事は、臨床・教育・研究とは異なる感覚で、非常に大きな刺激とそれに伴う経験をさせていただきました。その中で、新病棟の再開発の着手、呼吸器・感染症内科の新設、たんぼ保育園の移転改修、外来駐車場の改築ができたことは大きな喜びです。

特に新病棟の再開発は、今後の本院発展のためには、避けては通れないものでした。長い工事期間に入り、さまざまな困難が出てくると思われませんが、全スタッフが一丸となり、チーム医療としてのモチベーションを下げないようにしなければなりません。

そのためには、同じ施設の中で苦勞している他部門の事情を考慮し、お互いに緊密に理解し合うことが、結束と飛躍のための第一歩と考えます。未来を見据えた病院機能強化には、医師・看護師をはじめ人員の大幅な増員も必要ですが、同時



に「全ての価値基準を患者さんのために」という想いをスタッフ全員で共有できる環境作りも必要です。

新病棟の再開発にあたっては、本院の目指すべき将来像として「Your Health, Our Wish (あなたのために)」というスローガンが誕生しました。このスローガンには、施設や設備を新しくする一方で、患者さんのことを第一に考える本院の伝統を大切にしていきたいという想いが込められています。

『Your Health, Our Wish』

を合言葉に、職員の皆さんには大きな夢をもって仕事に取り組んでいただきたいと思います。

4月からは山口労災病院院長に着任することとなり、心機一転再出発をしたいと考えております。同じ二次医療圏の病院のひとつとして頑張る所存でおりますのでよろしくお願い申し上げます。

最後になりますが、今後の山口大学医学部附属病院の益々の発展を祈念して私の感謝の言葉とさせていただきます。

2010年9月1日、前任の神谷晃教授(臨床薬理学)の後任として、金沢大学から山口大学に着任しました。臨床薬理学教授は、医学部附属病院の薬剤部長を兼任することになっていきます。着任に当たり、予定在任期間の7年7カ月で10年分働こうと心に決めました。

一言で表現すると、「業務改革」に追いつまわられた7年7カ月でした。薬学教育6年制移行に伴う2年間の卒業生ゼロという厳寒の時期を耐え、2012年4月、初の6年制課程修了薬剤師を迎えました。目の前には、同年4月の診療報酬改定で新設された「病棟薬剤業務実施加算」への対応という大きなハードルが待っていました。これは、薬剤師が全病棟において週20時間以上の業務を行うことが算定要件でした。

2013年から3年間、毎年7名の新人を迎えました。効率的なスタッフ教育プログラムを整えて、業務が安定軌道に乗ったと実感できたのは2016年



山口大学大学院医学系研究科  
医学専攻 臨床薬理学講座 教授  
山口大学医学部附属病院 薬剤部長  
臨床研究センター長

## 古川裕之

末でした。着任当時は36名だった薬剤師定員が54名と1.5倍に増え、そのうち、薬学6年制教育課程修了者が28名という若い集団となりました。

また、2014年4月からは「臨床研究センター」のセンター長も兼任して、臨床研究実施体制の整備にも取り組むことも求められました。これまで続けてきた仕事を変えるのは容易ではありませんが、時代環境の変化に柔軟に適応しないと、生き延びることはできません。山口大学医学部附属病院で、「業務改革」に取り組めたこと、とてもうれしく思っています。

歴代の病院長(岡先生、田口先生、杉野先生)はじめ、各診療科、看護部門、中央診療部門と事務部門の皆様には、温かく迎えていただいたことを感謝しています。

毎日の通勤時、枠組みが出来上がった新病棟が見えます。薬剤部と臨床研究センターの皆さんと一緒に進めて来た改革も、枠組みはほぼ出来上がりました。完成を見ることなく本学を去るのはさみしい気もしますが、維新に向けて奔走した長州志士の姿と重なり、とても満足です。

皆様、大変お世話になりました。ありがとうございました。どこかで会いましょう!!

この度、平成30年3月で山口大学を退任することになりました。

私は、宇部市に生まれ、地元の小・中・高等学校を卒業後、長崎大学医学部に入学、昭和54年に卒業しました。卒業後は長崎大学第三内科橋場教授のもとで循環器学を学び始めました。昭和58年から国立循環器病センターに国内留学し、昭和62年からは米国クリブブランド

に海外留学しました。留学後長崎大学に勤務しましたが、平成5年4月に山口大学第二内科(現器官病態学)松崎益徳教授の教室に入局しました。他の大学からの遅い入局で知った人もいなかったのですが、正直心細い毎日を送っていましたが、皆様方には温かく迎えていただきました。

入局後は不整脈班のチーフを担当し、臨床電気生理学検査を担当、それまで学んだ臨床不整脈学の経験を生かし、診療と共に若い医師の指導を使命としました。この頃の不整脈治療は薬物療法の限界が判明し、非薬物治療へ変化する時



山口大学大学院医学系研究科  
保健学専攻 臨床看護学講座 教授  
保健学科長

## 清水昭彦

期でした。山口大学では高周波カテーテルアブレーション治療を早期より取り組み、植込み型除細動器による突然死予防の治療や心不全治療の非薬物治療として始まったばかりの心臓同期療法(CRT)も専用の機器が商用化される前に工夫して保険償還される前から積極的に植え込み、先進的治療を行ってきました。

平成13年4月からは新たに開設された保健学科に教授として移籍しました。これより、大学病院では循環器内科不整脈班のチーフとして不整脈の最新治療を指導し、保健学科では教鞭をとることになりました。多忙ではありましたが充実した日々を送り、皆様のおかげで何とか今日まで無事勤め上げることができました。

最後に、山口大学医学部附属病院勤務中は第1病棟9階東の看護師さん、師長さん、外来の看護師さん、放射線の看護師さん達には特にお世話になりました。時には患者さんのことで声が大きくなつたこともあったかと思いますが、未熟者としてご勘弁下さい。これからは今まで培ってきた様々な人生経験を生かし、微力ではありますが地域医療の発展に貢献したいと考えています。今後とも更なるご指導・ご鞭撻をお願い申し上げます。

## 退任の「ありがとう」

## 本当にありがとうがとうございました。



山口大学大学院医学系研究科  
保健学専攻 母子看護学講座 教授

### 田中 満由美

3月末日をもって山口大学を退職いたします。

私は、昭和49年山口大学医学部附属看護学校、昭和50年京都大学医学部附属助産婦学校を卒業後、京都大学医学部附属病院を経て、昭和51年に本院に就職し20年勤務しました。その後教育現場へ移り、山口県立大学を経て、平成14年から山口大学医学部保健学科に着任し、15年5ヶ月、計35年5ヶ月お世話になりました。大過なく無事勤めを終えることが出来ますのも、ひとえに皆様のおかげと深く感謝いたしております。

助産師としては、産科、小児科、NICU、産婦人科等を経験いたしました。その中でも看護スタッフと医局が一丸となってNICUの設置に関わったことは、印象深い思い出です。また患者さんと接する中で、たくさんのことを学ばせていただき、取り組みたいことが次々と湧いてきて充実した日々でした。患者さんに支えられた20年間と言って

も過言ではありません。

平成8年より山口県立大学講師として教育に本格的に関わることとなりました。本学に着任後は、保健学科の助産師コース、大学院修士課程・博士課程の立ち上げに関わりました。特に助産師コースは保健学科が設置されたばかりで、すぐにでも整えないと学生に影響を与えてしまうという状況での立ち上げでした。実習施設の開拓、教材作成、山口大学式分娩介助手順作成など苦労をしたことを覚えていますが、達成感のある仕事でした。また助産師コースの実習では、昼食もままならず、車中でおむすびをほおばりながら移動し指導していたことも今となつては懐かしい思い出です。これまで素晴らしい学生さんに囲まれて、教育に関わることが出来たことをとてもうれしく思います。

長きにわたり山口大学とともに歩んできた中、本当に素晴らしい仲間、素晴らしい学生さん、素晴らしい事務の方々に恵まれた仕事人生でした。

最後に山口大学医学部及び医学部附属病院の益々のご発展と皆様方の活躍とご健勝をお祈りし、退職のご挨拶といたします。



山口大学大学院医学系研究科  
保健学専攻 病態検査学講座 教授

### 岡野 こずえ

3月末日をもって、定年退職させていただきます。皆様には大変お世話になりました、ありがとうございました。

先日、「学生と歩んだ35年」と題して最終講義をさせていただきました。35年間の臨床検査技師教育と聞くと驚かれる方がいらつしやるかも知れませんが、本学部の臨床検査技師教育は2年制の衛生検査技師学校に始まり、3年制の臨床検査技師学校から医療技術短期大学部へ、そして4年制の医学部保健学科、大学院

博士前期・後期課程と目覚ましく変貌を遂げて参りました。その中で私は、医療技術短期大学部以降の35年間で、約1400名の学生の教育に携わってきました。

大学は、名称と共に教育内容も大きく変化しました。初期の臨床検査技師教育は即戦力型の人材育成でしたが、今では、医学・医療の進歩に対応でき、広く医療分野で活躍できる人材の輩出が求められています。私は臨床検査技師学校卒業後、山口大学医学部附属病院検査部に

8年間勤務し、その後教育現場に移りました。当時は、技師教育のポリシーもビジョンも無い状態で教鞭をとるにあたり、「大学は教育と研究の場である」と言う言葉に、ハードルの高さを感じました。そのような状態で学生への教育、研究手法の改革を行い、さらには自身のキャリアアップのため学士・博士号の取得、博士後期課程担当資格の認定への挑戦と必死で挑んで参りました。そんな状態の私に多くの方々がお力を貸してください、その結果として平成25年に教授を拝命することになりました。大きな役目に身の引き締まる思いがいたしました。

これからの保健学専攻は、検査技師が医学の領域で確固たる地位を築くために、知識・技術だけでなく、人間として大きく羽ばたける学生の育成が求められます。生体情報検査学領域は、新たに始まった再生医療検査を始めとして多くの専門性の高い領域の教育に力を入れ、知識と技術を持って新しい検査を切り開いています。これから先も本学部は、山口県内だけでなく日本の検査領域をリードする人材を輩出し続ける学校だと私は信じています。

最後になりましたが、本学で沢山の人の出会いがあり、充実した教育・研究を送ることが出来たことを心よりお礼申し上げます。



# 新たな命を

## 山口ゆめ花博 「健康の庭」



山口大学医学部・山口大学医学部附属病院 × 一般社団法人山口県造園建設業協会 共同出展

# 山口ゆめ花博に 「健康の庭」を共同出展

山口大学医学部 × 山口県造園建設業協会 × 山口大学医学部附属病院

1月31日(水)、医学部霜仁会館において、本年9月14日から開催される第35回全国都市緑化やまぐちフェア「山口ゆめ花博」に(一社)山口県造園建設業協会との共同で超高齢社会に対応する新しい庭「健康の庭: Well-being Garden」を出展することについて説明会を行いました。

谷澤医学部長からは、共同出展の経緯や来場される方に健康を楽しんでもらいたいと挨拶があり、また、同協会の多々良会長からは、「健康の庭」のコンセプトや医学部及び附属病院の医師、看護師、作業療法士など、多職種の医学・医療の知識や経験に基づいた新しい庭づくりの取り組みについて説明がありました。

「健康の庭」は、「Re Garden: リ・ガーデン」×実家のお庭に、「新たな命を」をコンセプトに、今ある庭の骨格を残しつつ、身体と心の健康の増進のための新たな庭園の利用を開発します。

高低差を利用し身体機能を増進する築山、足裏を刺激する地面や徒歩池、香りの良い花やハーブの育成や園芸で心の健康を保つ環境、人と接し語らう3世代交流デッキなど、庭と関わる日常生活の中で身体や心の健康を維持増進し、病気の予防や退院後の機能回復・維持、そして、高齢者を中心に3世代が集い、楽しみ、元気になる庭を提案します。

# Re Garden : リ・ガーデン～実家のお庭に、

## 第35回 全国都市緑化やまぐちフェア 山口ゆめ花博

開催期間

平成30年 9月14日(金)～11月4日(日)

会場

山口きらら博記念公園

主催

山口県・山口市  
公益財団法人都市緑化機構

イベントの  
詳細は

山口ゆめ花博HP <http://yumehana-yamaguchi.com/index.html>



共同出展に至った経緯を説明する谷澤医学部長



多々良会長によるコンセプトの説明



「健康の庭」模型

## NEWS



### 医学部医学科で白衣着衣式を挙行政

1月26日(金)、医学部医学科白衣着衣式を挙行政しました。この式典は毎年、本学医学部医学科同窓会である霜仁会(そうじんかい)から、1月末から始まる臨床実習を前に医学生としての決意と自覚を確認するために白衣が贈られているもので、福本霜仁会会長、谷澤医学部長、杉野医学部附属病院長をはじめ関係者が列席しました。

はじめに谷澤医学部長から「医師は患者さんから学ぶことが多い。患者さんと触れ合いながら実りある実習をして欲しい」と訓辞があり、Student Doctor(医学実習生)認定証(全国医学部長病院長会議認定)を学生代表に授与しました。続いて、福本霜仁会会長から祝辞があり、谷澤医学部長、福本霜仁会会長、杉野病院長が学生代表に白衣を着せた後、4年生115人が一斉に白衣を身に着けました。



学生代表の加藤幸多さんから「医療人となることを志す者としての自覚を高め、頂いた白衣の責任と使命を胸に、日々精進していくことを誓います」と宣誓がありました。最後に、杉野病院長から期待を込めた挨拶があり、学生全員が医学生としての決意と自覚を新たに白衣着衣式を終了しました。

## 1 病棟 6階 東

各病棟をご紹介します

1 病棟 6階東は、耳鼻咽喉科35床、共通病棟4床の計39床の病棟です。看護師28名、看護補助者2名、クラーク1名のスタッフが所属しています(2月1日現在)。  
耳鼻咽喉科では、腫瘍(喉頭、甲状腺、



耳下腺、声帯、上顎洞など)に対する手術・化学療法・放射線療法、扁桃腫大、中耳炎、副鼻腔炎、骨折(鼻骨・上顎洞など)に対する手術、突発性難聴、顔面神経麻痺、扁桃周囲膿瘍、睡眠時無呼吸などの検査・治療などを行っています。

耳鼻咽喉科疾患は、聴覚、臭覚、味覚などの感覚や、呼吸、発声、食べることに(咀嚼・嚥下)などに障害を来します。私たちが特に力を入れていることは、治療の副作用である疼痛や嚥下機能低下・食欲不振による食事摂取量の低下に対するケアです。例えば、がん患者さんには緩和ケアチームと協力し、苦痛を緩和しながら治療をすすめています。副作用のため食事摂取量が低下している患者さんには、医師や言語聴覚士、管理栄養士などと協力し患者さんの思いを聞きながら、納得できる方法を検討しています。手術で喉頭を摘出する患者さんには、安心して手術に臨み、療

養生活が送れるように、入院中から患者会「喉友会(こうゆうかい)」への橋渡しも行っていきます。

耳鼻咽喉科疾患の患部は、日常的に覆い隠すことのない部位であるため、見た目の変化も来します。そのため、身体面だけでなく、心理社会的な側面に様々な課題を擁することが多いと言えます。私たちは、患者さんの気持ちに寄り添い、心理社会面の不安を軽減するためにアピアランスケア(外見の変化に伴う苦痛を軽減するケア)を取り入れるなど、日々努力しています。

## 喉友会について

喉友会とは、がんで喉頭を摘出して声を失った方で組織される患者会で、全国に56団体あります。山口喉友会は県内で6か所の教室を開催しており、コミュニケーションに必要な新しい声を獲得するための訓練を行っています。また、社会復帰後の会員相互の情報交換やレクリエーションも図られています。当院でも外来で月に2回教室が開催されており、会員の方にこれから手術される患者さんの相談のついでにいただくこともあります。年に1回開催される総会には、医師と共に看護師長やスタッフも出席し、県内の会員の方々と親睦を深め、お互いの情報共有を行っています。



カンファレンス

**新人ナースの紹介**  
今年度は3人の新人看護師が配属となり、あたたかい看護の実践のために、先輩看護師の丁寧な指導を受け成長しています。

## 大谷師長より一言

「大切な人が入院してもいいと思える病棟にする」というスローガンを掲げ、丁寧な看護実践を目指し、チーム一丸となって頑張っています。この病院に入院してよかったと思っていただけるように、これからもスタッフと共に努力して参ります。



Today's menu

鶏肉のヘルシーホワイトソースかけ

季節の変わり目は、何かとイライラや不調を訴えやすい時期。  
イライラや不眠症に関わるといわれるカルシウム(Ca)が不足しないように、  
今回は少量でもカルシウムが摂れるスキムミルクを使用したホワイトソースを紹介します。  
脂質も控えられるので、見た目よりさっぱりとした味わいになります。

材料 1人分

- 鶏もも肉(皮なし)..... 60g
- 塩こしょう..... 少々
- 小麦粉..... 3g
- 油..... 0.5g

【ホワイトソース】

- バター..... 3g
- 小麦粉..... 5g
- スキムミルク..... 5g
- 水..... 70g
- しめじ..... 25g
- 玉葱..... 30g
- 油..... 0.5g
- 塩こしょう..... 少々
- コンソメ(顆粒)..... 0.5g

【つけあわせ】

- 人参..... 10g
- スナップえんどう..... 30g

作り方

《野菜の下準備》

玉葱は薄切り、しめじは石づきを取ってほぐしておく。  
つけあわせの人参は5mm程度の輪切り、スナップえんどうは筋を取って茹でておく。

《肉の下準備》

鶏肉は食べやすい形にそぎ切りにし、塩こしょうで下味をつける。

《ホワイトソースを作る》

- ① 玉葱としめじは、油を敷いたフライパンで炒めて皿にとる。
- ② スキムミルクは分量の水で溶いておく。
- ③ フライパンを再び熱し、バターを溶かして小麦粉を炒める。粉っぽさがなくなったら溶いたスキムミルクを少しずつ加えて、とろみがついたら塩こしょう、コンソメで味を調える。炒めた玉葱としめじをフライパンに戻し混ぜ合わせる。

《肉を焼く》

下味をつけた鶏肉に小麦粉をまぶし、ソースとは別のフライパンでこんがり焼く。

《盛り》

焼いた鶏肉を皿に盛付け、ホワイトソースをかけて、茹でておいた野菜を盛付けてできあがり。

栄養成分

エネルギー 約190kcal 食塩相当量 0.5g

今回のポイント

スキムミルクは溶く時にダマになりやすいので、  
少しずつ水を加えながら混ぜましょう。

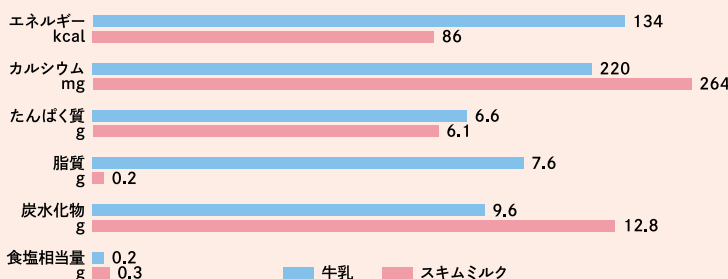
スキムミルクを使うことで、牛乳を使う時よりも  
脂質を約2g(約18kcal)減らせます。

さらに、この料理で使用したスキムミルク5gで、  
牛乳50ccと同等のCaが摂れます。

乳製品を使用することでコクが増し、塩分が少  
なくてもおいしく食べられます。

スキムミルクは、生乳から乳脂肪分を除き粉末にしたもの。そのため脂質がほとんどありません。しかし牛乳と同じく良質なたんぱく質や不足しやすいCaはそのまま補えます。Caは骨や歯の材料になるだけでなく免疫機能やホルモン分泌、神経や筋肉を調節するのに関わる重要な栄養素。ただしリンや食塩の過剰摂取で吸収されにくくなるので注意しましょう。  
参考文献：食の医学館

●牛乳とスキムミルクの比較 牛乳200mlとスキムミルク(水200ml)に大4:24g



# 病院整備 計画室 だより



## 新病棟新営工事進捗状況

建設現場では、8階床部分まで骨組みが組み上がってきており、今年8月頃には最上階（22階）まで完成する予定です。

大型タワークレーン（地上40メートル）からの様子。詳細は再開発HPブログにて紹介しております（左下アクセス参照）。



地面と垂直に伸びる  
タワー

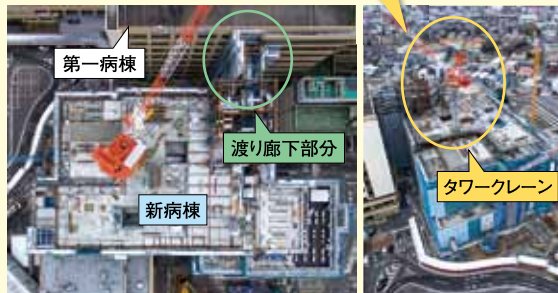


立体駐車場と  
外来診療棟を見下ろす

## 患者さん向け食事・休憩スペースオープン

接続工事に伴い、1月末で第二病棟2階の食堂「くつろぎ空間・朋」が閉店となり、皆様にはご不便をおかけして申し訳ございません。代わりにのスペースとして、2月13日（火）に、同フロアに患者さん及び一般の方向けの食事・休憩スペース（24席）を新たにオープンしました。こちらでは食事提供は行っておりませんが、飲食物のお持ち込みが可能です。平日11～14時には同スペース入り口前に移動売店を設置し、弁当やパン等を販売しております。併せてご利用ください。

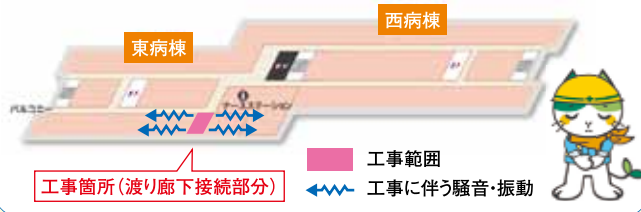
食事・休憩スペース



平成30年1月27日撮影

## 第一病棟工事についてのお知らせ

- 期 間 平成30年1月19日（金）～10月6日（土）
- 工事時間 8:30～18:00 [音出し工事時間 9:00～17:00]  
(8:30～9:00、17:00～18:00は作業準備時間)
- 工事場所 第一病棟各階（詳細は下図参照）



工事箇所（渡り廊下接続部分）

工事範囲

工事に伴う騒音・振動



## 第一病棟工事についてのお知らせ

1月中旬から、新病棟と第一病棟を繋ぐ渡り廊下接続工事が最上階から順に始まっています。工事期間中は騒音・振動等ご迷惑をおかけしますが、ご理解ご協力の程よろしくお願い申し上げます。詳しくは、各病棟のエレベーター周辺に掲示しているポスター、入院のしおり封入のリーフレット、または病院ホームページをご覧ください。

## 再開発整備事業へのアクセス

山口大学 再開発

検索



再開発整備事業URL

<http://h-seibi.hosp.yamaguchi-u.ac.jp>

## お知らせ

### 第2回 市民公開講座 なるほど!『てんかん』

事前申し込み不要/どなたでも参加できます

日 時 平成30年 4月1日(日) 13:00～15:00

場 所 宇部市文化会館 2F 研修ホール  
宇部市朝日町8番1号 JR宇部新川駅から徒歩3分/駐車場無料

お問合せ 山口大学てんかんセンター  
E-mail [yamaguchi.tenkan2018@gmail.com](mailto:yamaguchi.tenkan2018@gmail.com)  
FAX 0836-22-2294 (担当:脳神経外科 井本)

入場料 無料

主 催 山口大学てんかんセンター

後 援 山口大学医学部附属病院  
山口県・宇部市・山口県教育委員会  
全国てんかんセンター協議会  
てんかん協会山口県支部



## 編集後記

3月は旅立ちの季節。定年退職を迎えられる皆様、長い間本当にお世話になりました。病棟リレーは、今回で最終回です。忙しい中でも、いつも笑顔で協力して下さった看護部のみなさん、ありがとうございました!!

皆さんからのご意見・ご感想をお待ちしております。  
今後読んでみたいテーマ、興味のある記事などお気軽にお寄せください。  
FAX 0836-22-2113 E-mail [me202@yamaguchi-u.ac.jp](mailto:me202@yamaguchi-u.ac.jp)

企画発行: 山大病院だより編集委員会  
事務担当: 山口大学医学部総務課総務係  
〒755-8505 山口県宇部市南小串一丁目1番1号  
TEL 0836-22-2007 URL <http://www.hosp.yamaguchi-u.ac.jp>

